



地域で取り組む水害対策 水害コミュニティ・タイムラインの作成



東京都 足立区第18地区町会自治会連絡協議会
会長 羽住 奎

1 はじめに

足立区第18地区町会自治会連絡協議会（以下、「協議会」という。）は、東京都足立区の東端に位置する足立区中川、東和、大谷田地区の14の町会・自治会から構成されており、加入世帯は、約5,600世帯です。その地形は平坦で、中川（利根川水系の一級河川）に隣接する地域で、過去には、昭和22年のカスリーン台風による甚大な浸水被害を受けました。

2 地域の防災活動全般について

協議会内の各町会、自治会では、毎年小学校を拠点とする避難所運営訓練を中心に、地震を想定した実践的な防災訓練を繰り返すことで、誰もが安心して暮らせるまちづくりを目指してきました。平成22年には、地域における防災・防犯・交通安全・環境衛生活動を推進するために、協議会の下部組織として、「中川地区安全対策会議」を設立。その作業部会において、地域の特性を反映させた「防災マニュアル」を作成し、各町会・自治会員に配布しました。その他にも、実際にまち歩きをすることによって、避難経路や危険個所を確認し、地図に落とし込んだ「防災マップ」を作成し、各町会・自治会員に配布するなど、地域の防災力向上に努めてきました。

3 水害対策委員会の誕生

平成27年9月の関東・東北豪雨（台風第18号）によって、関東地方では鬼怒川

が決壊するなど甚大な被害が発生しました。中川も氾濫こそ免れましたが、その水位が氾濫危険水位にまで上昇しました。そのことを契機に、協議会内の町会・自治会住民は危機感を強め、「水害対策を行政に頼りきるのではなく、過去に水害を経験した地域だからこそ何か行動を起こしたい」との思いから、同年11月に、「水害対策委員会」（以下、「委員会」という。）を自主的に結成しました。

委員会発足後には、専門家を招いて水害対策にかかる勉強会等を開始し、水害発生に備えて救命ボートや救命胴衣を整



救命ボート操縦訓練



救命胴衣・浮環

備し、消防署及び消防団の指導のもと、小学校のプールを利用した救命ボートの取扱い訓練などを積極的に行ってきました。

4 水害コミュニティ・タイムラインの策定

平成 29 年 1 月に開催された第 5 回目の委員会からは、実際に中川が氾濫したことを想定し、警戒レベル等に応じた地域の水害行動計画（水害コミュニティ・タイムライン）の策定に取り組んできました。平成 30 年度からは、外部の専門家（NPO 法人環境防災総合政策研究機構（CeMI）…気象庁予報部署OBである気象防災の専門家などで構成する組織）のアドバイスを得て、第 18 地区全体版の水害コミュニティ・タイムラインを作ることができました。



ワークショップの様子



グループ発表の様子

平成 30 年度からは、第 18 地区全体版の水害コミュニティ・タイムラインをもとに、各町会・自治会ごとの水害コミュニティ・タイムラインを策定し、実際に台風の接近に合わせるなどの試行、検証を重ね、より実効性のあるものになるように改善、発展を図っています。

さらに、令和元年度からは、中川だけでなく、地域の西側に位置する荒川の氾濫による大規模水害に対応した水害コミュニティ・タイムラインの策定を目指し、「中川地区 荒川大規模水害コミュニティ・タイムライン検討会」を設置して、検討を開始しています。

これらの取組は、令和元年台風第 19 号への対応にも生かされました。台風が来襲する 2 日前にはその対応を協議し、チラシの各戸配付、要支援者に対する避難の呼びかけ、周辺住民の避難に資するマンションを開放する準備、区外への避難者の増加、円滑な避難所の開設など、様々な対策を行うことができました。また、台風第 19 号の教訓も踏まえ、AAR（After Action Review）を行うことで、災害時要支援者への対応をよりきめ細かくするべく、改善に取り組んでいます。

近年の気候変動により、全国各地において大雨による大規模な災害が毎年のように続いています。今後も行政や関係機関と連携し、地域の実情に応じた水害対策を進めていきたいと考えています。

